

第1回高知県事前復興まちづくり計画策定指針検討会

東日本大震災における
復興まちづくりの事例

令和3年2月20日
検討会事務局（高知県南海トラフ地震対策課）

基本理念と復興まちづくりの考え方

	基本理念	復興まちづくりの考え方
国	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地震その他の天災地変による災害の防止の効果が高く、何人も将来にわたって安心して暮らすことのできる安全な地域づくりを進める ◇ 被災地域における雇用機会の創出と持続可能で活力ある社会経済の再生を図る ◇ 地域の特色ある文化を振興し、地域社会の絆の維持及び強化を図り、並びに共生社会の実現 <p style="text-align: right; font-size: small;">東日本大震災復興基本法（基本理念）第二条5項 より抜粋</p>	<p>「減災」という考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 水際での防御から、「逃げる」ことを基本とするソフト面の対策を重視 ◇ 防潮堤等に加え、交通インフラ等を活用した第二の堤防機能の充実、土地のかさ上げ、避難地・避難路・避難ビルの整備 ◇ 災害リスクを考慮した土地利用・建築規制 ◇ コミュニティの一体性を確保 <p>地域の将来性を見据えた復興プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 高齢者や弱者にも配慮したコンパクトなまちづくり、くらしやすさや景観、環境、公共交通、省エネルギー、防犯の各方面に配慮 ◇ 再生可能エネルギーと生態系の恵みを生かす地域づくり、次世代技術等による産業振興、地域資源の活用と域内循環 <p style="text-align: right; font-size: small;">復興への提言～悲慘のなかの希望～H23.6 東日本大震災復興構想会議 より抜粋</p>
岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 現状復旧にとどまるのではなく、科学的、技術的な知見に立脚した津波対策の方向性やまちづくりのグランドデザインを基にした安全で安心な防災都市・地域づくり ◇ 歴史や文化を次代に継承し、いきいきと暮らすことのできる「ふるさと」であり続ける ◇ 「なりわい」と「暮らし」を早急に再生し、誰もが再び人間らしい日々の生活を取り戻す ◇ コミュニティの回復・再生を図り、三陸の海が持つ多様な資源や潜在的な可能性などの特性を生かす ◇ 多様な参画による開かれた復興 <p style="text-align: right; font-size: small;">岩手県東日本大震災津波復興計画 復興基本計画 H23.8 岩手県 より抜粋</p>	<p>津波対策の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 被害状況や地理的条件、歴史や文化、産業構造などに応じて、その地域にふさわしい「海岸保全施設」、「まちづくり」、「ソフト対策」を適切に組み合わせた多重防災型まちづくり ◇ 嵩上げや高所移転により安全な住環境を確保 ◇ 海岸保全施設等により一定の安全性を確保した上で、津波のシミュレーションを参考に、住宅地、商業地、業務地、工業地や必要に応じて建築制限を行う地域などを適切に配置 ◇ 市町村庁舎や病院、学校、福祉施設等を安全性の高い場所に配置 <p>まちづくりの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生命と財産の保全 ◇ コンパクトな都市形成 ◇ 産業の再生と活性化 ◇ 環境との共生 <p style="text-align: right; font-size: small;">岩手県東日本大震災津波復興計画 復興基本計画 H23.8 岩手県 より抜粋</p>
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 災害に強く安心して暮らせるまちづくり ⇒空間的な暮らし方や歴史的観点を踏まえたハード・ソフト両面の対策 ◇ 県民一人ひとりが復興の主体・総力を結集した復興 ◇ 「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」 ⇒農林水産業・商工業のあり方、公共施設・防災施設 ◇ 現代社会の課題を解決する先進的な地域づくり ⇒人口の減少、少子高齢化、環境保全、自然との共生 ◇ 壊滅的な被害からの復興モデルの構築 <p style="text-align: right; font-size: small;">宮城県震災復興計画 H23.10 宮城県 より抜粋</p>	<p>三陸沿岸リアス地形のまちづくり</p> <p>(津波が勢力を保ったまま防潮堤をはるかに超える高さで来襲し壊滅的な被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ L1津波は、防潮堤で防護することで人命・財産を保護し経済活動を継続 ◇ L2津波は、L1津波を第一線で防護する海岸堤防を整備した上で今回の津波浸水域である沿岸域には災害危険区域を設定して居住を制限し産業エリアとして活用 ◇ L2津波から人命が失われることのないよう、居住地は高台移転が基本 <p>仙台湾沿岸部のまちづくり</p> <p>(砂浜海岸の背後に平地が広がり、津波は減勢しながらも内陸奥深くに到達)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ L1津波は、リアス地形と同様 ◇ L2津波は、L1津波を第一線で防護する海岸堤防や防災緑地の整備と併せて盛土構造の道路を配置し、その内陸側に市街地を整備する多重防護 <p style="text-align: right; font-size: small;">災害に強いまちづくり宮城モデルの構築 H29.3 宮城県土木部 より抜粋</p>

復興まちづくりの事例

岩手県陸前高田市高田地区

3つの基本理念

- ◇ 世界に誇れる美しいまちの創造
- ◇ ひとを育て命と絆を守るまちの創造
- ◇ 活力あふれるまちの創造

出典：陸前高田市震災復興計画

命を守る視点

- ◇ 低地部が津波の浸水を免れるように高さを確保することを基本
- ◇ 津波を減衰し市街地を防護する防潮堤、背面盛土、防潮林

なりわいを再生する視点

- ◇ 被災した海岸地域等の低地部は、基幹的産業と連携した新産業ゾーン、公園、農用地等に活用

生活を再建する視点

- ◇ 山側にシフトした新しい市街地の形成
- ◇ 行政区ごとの高台移転を基本に地域コミュニティを再生

歴史・文化を継承する視点

- ◇ 市のシンボルでもある高田松原公園を再生するとともに、大震災の経験や教訓を後世に伝承する高田松原・防災メモリアル公園ゾーンを整備

地域の課題等の解決につなげる視点

- ◇ 地域一体で復興再建の人材を育むための子育て支援体制を確立
- ◇ 高齢化社会に対応したまちづくりとして、医療福祉関連施設等の集約化による総合エリアの創設



出典：陸前高田市震災復興計画（H23.12）



陸前高田市(高田海岸)

【被災前】

被災前



【被災後】

被災後

臨海部の市街地は壊滅的な被害

出典：岩手県復興基本計画 参考資料（H23.8）

復興まちづくりの事例

岩手県大船渡市

命を守る視点

- ◇ 津波浸水想定区域内の住宅等は、高台移転やかさ上げ等による安全な立地が前提
- ◇ 公共施設については、津波被害を受けない地域への配置を基本
- ◇ 道路等による防災機能の付加は、浸水リスクを考慮した土地利用、建築制限等を地域の状況に応じて組み合わせ、適切に実施

なりわいを再生する視点

- ◇ 基幹産業である水産業を早期再建
- ◇ 遊休農地の有効利用を踏まえながら、被災した農地などを早期に復旧
- ◇ 商店街は、居住環境との分離も含めまちづくりと連動した形態や機能の再編成を検討

歴史・文化を継承する視点

- ◇ 天然の良港を基盤に発展した歴史があり、港を活かした産業振興を軸とした復興

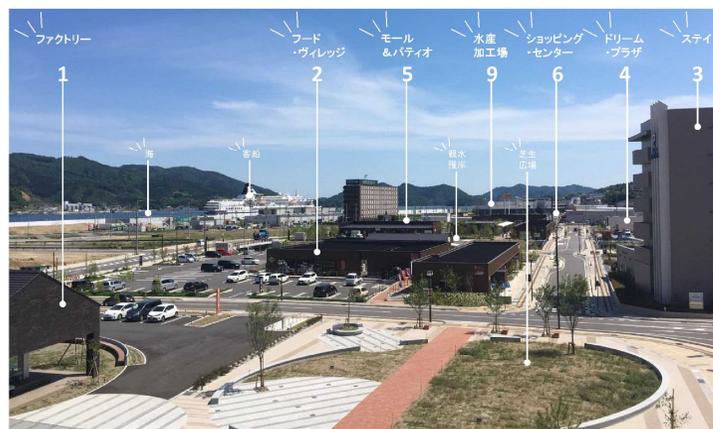
地域の課題等の解決につなげる視点

- ◇ 工業用地の早期整備による地場産業振興と企業誘致の推進による雇用の創出
- ◇ 少子高齢化や家族構成の多様化が進む中で健康で安心して暮らせるまちづくりの推進

目指すべき大船渡市の姿

- ◇ 命を守り、夢を育むまちづくりと防災に協働するまち大船渡

出典：大船渡市復興計画



出典：大船渡市災害復興局大船渡駅周辺整備室 キャッセン大船渡エリア（津波復興拠点整備事業区域）の概要



被災前



被災後

出典：岩手県復興基本計画 参考資料 (H23.8)

生活を再建する視点

- ◇ 被災市街地と残存市街地が存在するため、新たな居住環境の連続性が保てるよう配慮

復興まちづくりの事例

宮城県南三陸町志津川地区

復興の基本理念

自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち

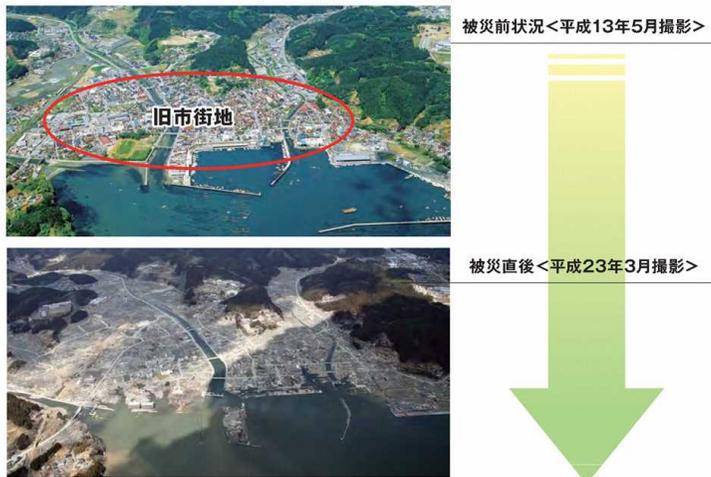
出典：南三陸町震災復興計画

生活を再建する視点

- ◇ 大きな被災を免れた高台の住まいや学校など一体となった土地利用

歴史・文化を継承する視点

- ◇ 志津川湾特有の自然地形や景観、東浜街道（気仙道）の宿場町、地域の中心として栄えた港町の歴史・文化資源などを活かす



復興まちづくりの状況<平成28年11月撮影>



出典：宮城県土木部 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築 H29年3月

命を守る視点

- ◇ 住宅地や公共施設を高台に移転し、安全性の高い場所に機能を配置

なりわいを再生する視点

- ◇ 産業、商業・観光の機能、及び居住、公共公益等の機能をそれぞれ集約し、有機的な連携を促す（安全上、居住地としての利用は制限）
- ◇ 幹線道路や鉄道などの交通アクセス条件を有効活用した土地利用

地域の課題等の解決 につなげる視点

- ◇ 過大な宅地開発は行わず、拠点施設を中心になるべくコンパクト（集約）にすることで、道路や公共施設をユニバーサルデザインとすること等、人口減少と高齢化の進展に十分配慮したまちづくり

復興まちづくりの事例

宮城県牡鹿郡女川町高白浜地区

基本的な考え方

- ◇ 女川町離半島地区の魅力である漁港や景観を維持し、津波浸水区域を有効に活用することで活力ある漁村集落を目指す

出典：女川町復興まちづくり住民説明会資料

命を守る視点

- ◇ 今次と同程度の津波に対しても安全な高台へ移転（標高約10m→35m）
- ◇ 津波で被災した区域は居住を制限
- ◇ 漁業施設から住宅への避難階段整備



生活を再建する視点

- ◇ 地区ごとに、地区近傍の高台に移転することを基本
- ◇ 土砂災害への安全性
- ◇ 幹線道路との接続
- ◇ 海への眺望
- ◇ 日照

歴史・文化を継承する視点

- ◇ 牡鹿半島リアス式海岸を望む風景

なりわいを再生する視点

- ◇ 豊かな漁場
- ◇ 津波で被災した土地は、漁業・水産施設として利用
- ◇ 漁業施設と住宅を結ぶアクセス道路

地域の課題等の解決 につなげる視点

- ◇ 離半島部について集約（漁港の集約化と住まいの集約をセット）を図りたいと考えていたが、浜ごとに移転したいという地域住民の要望を尊重するプランに変更

復興まちづくりの事例

宮城県 岩沼市

復興の基本理念

- ◇ 被災者の一日も早い生活の再建 心のケアと被災者の支援
- ◇ コミュニティを大切に集落再生
- ◇ 雇用の創出と活気のあるまち
- ◇ 自然エネルギーを活用した先端都市
- ◇ 歴史の宝庫千貫丘陵、竹駒神社のまち、津波よけ千年希望の丘

出典：岩沼市震災復興計画ランドデザイン
～愛と希望の復興～

生活を再建する視点

- ◇ 地域の意向を十分踏まえ、エコ・コンパクトシティの形成を基本とする集団移転
- ◇ 自然エネルギーを活用した先端モデル都市

歴史・文化を継承する視点

- ◇ 歴史的資産である貞山堀の保全・再生
- ◇ 居久根の活用をはじめとした農村集落の優れた文化的景観の保全・再生

6つの被災集落を1箇所に集約移転



平成27年7月19日 まち開き開催



出典：宮城県土木部 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築 H29年3月

命を守る視点

- ◇ 津波の力を軽減させる多重防御として、防潮堤の整備、千年希望の丘の整備、貞山堀の整備、市道空港三軒茶屋線のかさ上げ等

なりわいを再生する視点

- ◇ 農地の回復と農業の再生
- ◇ 自然共生・国際医療産業都市の整備
 - 医療関連産業の集積による地域経済の活性化、市民福祉の向上、国際貢献、雇用の確保等

地域の課題等の解決

につなげる視点

- ◇ 6つの集落を集約化することによる以前より住みやすいまちづくり
- ◇ 新しい分野の企業誘致による雇用の創出